不思議現象に対する態度と曖昧さに対する耐性との関連

不思議現象に対する態度 (21)

○坂田浩之¹・川上正浩¹・小城英子²

(¹大阪樟蔭女子大学心理学部・²聖心女子大学文学部)

キーワード: 不思議現象, 態度, 曖昧さに対する耐性

Relation between attitudes towards paranormal phenomena and ambiguity tolerance

Attitudes towards Paranormal Phenomena (21)

Hiroiyuki SAKATA¹, Masahiro KAWAKAMI¹, Eiko KOSHIRO²

(¹Faculty of Psychology, Osaka Shoin Women's University, ²Faculty of Liberal Arts, University of the Sacred Heart)

Key words: paranormal phenomena, attitude, ambiguity tolerance

目 的

心霊現象や占い, UFO, 超能力など, 現在の科学ではその存在や効果が立証されないが人々に信じられていることのある現象は, 総括して“不思議現象”と呼ばれる。小城・坂田・川上 (2008) は, “占い・呪術嗜好性”, “スピリチュアリティ信奉”, “娯楽的享受”, “懐疑”, “恐怖”, “霊体験”の6つの下位尺度からなる不思議現象に対する態度尺度 (APPIe) を構成している。また, APPIe を用いて, 不思議現象に対する態度を規定する要因に関して検討が重ねられてきている。

本研究では, 不思議現象に対する態度を規定すると考えられる要因として, 曖昧さに対する耐性を取り上げ, 不思議現象に対する態度との関連について検証することを目的とする。

不思議現象に対する態度と曖昧さに対する耐性との関連について, 菊池・長谷川 (2009) は, 耐性が低いほど超常信奉が高まるという「権威主義的パーソナリティ仮説」, 信奉であれ完全否定であれ両極の立場の者は耐性が低いという「イデオログ仮説」, 逆に両極にある者は耐性が高いという「文脈仮説」の3つの仮説を想定し, 男子高校生を対象とする調査によって検証した結果, 曖昧さへの耐性の低さと超常現象信奉との関連は見られなかったが, 占い迷信信奉が高まると曖昧さへの不寛容も高まるという「権威主義的パーソナリティ仮説」を支持する直線関係が見出されている。

方 法

調査対象者: 東京都の K 大学と愛知県の N 大学に所属する大学生 255 名 (男性 94 名, 女性 161 名, 平均年齢 20.8 歳: $SD = 1.4$) が調査に参加した。

調査時期: 2009 年 5 月および 9 月

調査方法: 講義時間中に, 集団実施された。

調査内容: APPIe55 項目 (小城他, 2008), および, 心理的健康と関連する曖昧さに対する耐性尺度 24 項目 (増田, 1998)。ともに, 5 件法。

結 果 と 考 察

APPIe の各下位尺度得点と心理的健康と関連する曖昧さに対する耐性尺度得点 (以下, “曖昧さに対する耐性”と略記する) との相関係数を算出し, Table1 に示した。

男性に関しては“曖昧さに対する耐性”と“スピリチュアリティ信奉”との間にのみ有意な負の相関が認められた。この結果から, 男性においては, 曖昧さに対する耐性が低いほど, 神仏や霊や前世を信奉する態度が強いという傾向が明らかにされ, スピリチュアリティの信奉に限定されるが, 菊池・長谷川 (2009) と同様に「権威主義的パーソナリティ仮説」が支持された。

一方, 女性に関しては, 曖昧さに対する耐性と“占い・呪術嗜好性”, “懐疑”, “恐怖”との間に, $r = -.269 \sim -.200$ と低い値ながらも, 有意な負の相関が認められた。この結果から,

女性に関しては, 明確な関連があるとはいいがたいが, 占いやおまじないを信奉し, 嗜好する態度と, UFO や超能力や占いに恐怖を感じる態度, 不思議現象に懐疑の目を向けてその神秘性を否定しようとする態度が, 曖昧さに対する耐性の低さと関連することが示唆された。この中で“占い・呪術嗜好性”と曖昧さに対する耐性との負の関連のみに着目すれば, 大学生女子に関しても菊池・長谷川 (2009) の結果が妥当であることが支持される。その一方で, 女性では, 曖昧さに対する耐性が不思議現象に対する態度を規定するあり方が, 男性とは異なり, 曖昧さに対する耐性の低さが, 不思議現象に対して肯定的であるにしろ, 否定的であるにしろ, 明確な態度を形成することにつながる可能性も示唆される。これは「イデオログ仮説」と整合的である。あるいは, この結果が「権威主義的パーソナリティ仮説」を支持するものだと解釈するならば, 女性においては科学的説明が権威として捉えられていると考えることもできる。すなわち, 本研究の結果は, 不思議現象の科学的説明を信じる態度が, 必ずしも論理的合理的な思考と結びついておらず (坂田・川上・小城, 2006), 不思議現象を懐疑的に否定する態度をとることによって, 不思議現象に関する複雑な情報処理を回避している可能性があり, 科学を全知全能のものとして信仰する心理的メカニズムは, 宗教に対する信仰と共通しているという仮説 (小城他, 2008) を, 女性に関して支持するものであるといえる。

引用文献

菊池 聡・長谷川孝治 (2009). 超常信奉と「あいまいさへの不寛容」 日本心理学会第 73 回大会発表論文集, 233.
小城英子・坂田浩之・川上正浩 (2008). 不思議現象に対する態度: 態度構造の分析および類型化 社会心理学研究, **23**, 246-258.
増田真也 (1998). 曖昧さに対する耐性が心理的ストレスの評価過程に及ぼす影響 茨城大学教育学部紀要 (人文・社会科学・芸術), **47**, 151-163.
坂田浩之・川上正浩・小城英子 (2006). 不思議現象に対する態度 (2) 日本社会心理学会第 47 回大会発表論文集, 680-681.

Table1 不思議現象に対する態度と曖昧さに対する耐性との相関

	占い・呪術 嗜好性	スピリチュア リティ 信奉	娯楽的享受	懐疑	恐怖	霊体験
曖昧さに対する 耐性						
男性	-.111	-.338 **	-.031	-.112	-.213	-.103
女性	-.215 **	-.143	-.022	-.200 *	-.269 **	-.078
全体	-.172 *	-.216 **	-.023	-.163 *	-.243 ***	-.086

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$